

A・10奪還チーム出動せよ

S・L・トンプソン 著

学生の頃、クルマが好きな友人から「カーキチには、たまらない小説だから」と薦められて読んだ作品です。決してカーキチではありませんでしたが、その友人の言葉には嘘はなく、今でも自動車を運転している時に、この作品の事を思い出します。

舞台は、東西冷戦下のドイツです。アメリカ軍将校のマックスは元カーレーサー。特別な任務を帯びて東ドイツ領ポツダムにある連絡施設に赴任します。その任務とは、東側の領内で孤立した西側のスパイヤ機材を奪還し、帰って来ること。

マックスが操るのは、特別にチューンナップされたフォード車です。追うのは東ドイツ人民警察のBMWとソ連軍のヘリコプター。カーチェイスのシーンは、まさに手に汗握る描写の連続で、最後には自分がハンドルを握っているような気持ちになりました。

続編も出版されています。その中でマックスは4WD車や、小型飛行機を操縦し「東側」と戦います。

ベルリンの壁が崩壊して今年で20年。本書の設定も、もはや、現実的ではありません。アメリカ発の経済危機により、大排気量のアメ車は時代遅れと言われ、環境意識の高まりにより、環境配慮型や低燃費の自動車が目されるようになってきています。本書も絶版となっており古本でしか手に入りません。

それでも、本書は面白い。なんとか次世代のカーキチにこの面白さを伝えたい。新しい時代の新しい自動車小説の誕生を期待して。

T
M



新潮文庫 (絶版)

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株) ファッションビジネス・御堂筋新聞